**桐原書店『探求 言語文化 改訂版』（言文212-901）　評価規準案**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 科目 | 単位数 | 学年 | 使用教科書 |
| 言語文化 | 2単位 | 1学年 | 『探求 言語文化 改訂版』（桐原書店） |

**１．学習の到達目標**

|  |
| --- |
| 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。  (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる　　ようにする。  (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや　　考えを広げたり深めたりすることができるようにする。  (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての　　自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |

**２．評価の観点**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。 | 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。 |

**３．使用副教材**

|  |
| --- |
| 『「探求 言語文化 改訂版」準拠　予習復習ノート』 |

**《〈知〉のコミュニティへ》**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| ことばの風、文化の記憶 | ＳＡＫＵＲＡ  (p.14～p.15） | １ | ・歌詞の中の文語的表現に注目し、表現のもたらす印象や効果について、感じたことを自分の言葉で表現する。  ・身近な表現の中にある文語的表現に目を向け、興味・関心を広げる。 | 知　(1)ア  Ａ：言葉の文化に関する働きとその価値を認識し、言葉の世界に対する関わりを実感している。  Ｂ：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  Ｃ：言葉に文化の発展と創造を支える働きがあることが理解できていない。  知　(1)イ  Ａ：常用漢字の表記を文脈に応じて正しく読み書きできるだけでなく、読みやすくすることにも配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語について考えることで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。 | 読　(1)ウ  Ａ：「ＳＡＫＵＲＡ」について、表現上の特色を指摘するだけでなく、作品における効果について文章にまとめ、自分の考えを深めることができている。  Ｂ：「ＳＡＫＵＲＡ」について表現上の特色を指摘し、その効果について周囲と話し合いながら考えを深めている。  Ｃ：「ＳＡＫＵＲＡ」について、表現上の特色を指摘することができず、またその効果などについて十分に考えることができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている登場人物の思いや書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| ことばが運ぶ文化の記憶  ―近代・近世・中世・中古・上代・漢文  （p.16～p.30） | １ | ・さまざまな時代に書かれた作品を学習する意義を理解する。  ・本文を正しく音読し、作品が成立した時代の違いや文章ジャンルの違いを味わう。  ・本文の内容を理解し、それぞれの時代の価値観や人々の思いについて自分の考えをまとめる。 | 知　(1)ア  Ａ：言葉の文化に関する働きとその価値を認識し、言葉の世界に対する関わりを実感している。  Ｂ：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  Ｃ：言葉に文化の発展と創造を支える働きがあることが理解できていない。  知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語について考えることで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句に触れ、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(2)イ  Ａ：古典作品や文章がもつ歴史的・文化的背景が、作品や文章に奥行きや豊饒さをもたらしていると理解を深めている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。  Ｃ：古典作品の歴史的・文化的背景への理解が十分にできていない。  知　(2)オ  Ａ：歴史的な文体の変化について理解を深め、言語が歴史的流れの中にあることを理解している。  Ｂ：歴史的な文体の変化について理解している。  Ｃ：歴史的な文体の変化を十分に理解できていない。 | 読(1)エ  Ａ：「ことばが運ぶ文化の記憶」について、作品や文章の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、内容の解釈を深めている。  Ｂ：「ことばが運ぶ文化の記憶」について、作品や文章の成立した背景や他の作品との関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  Ｃ：「ことばが運ぶ文化の記憶」について、作品や文章について成立した歴史的・文化的な位置づけが把握できていない。  読(1)オ  Ａ：「ことばが運ぶ文化の記憶」について、作品の認識の仕方や感受する姿勢が充実し、我が国の言語文化を継承していく一員としての自分のあるべき姿を展望できている。  Ｂ：「ことばが運ぶ文化の記憶」について、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもてている。  Ｃ：「ことばが運ぶ文化の記憶」について、作品の内容理解や解釈が十分でないため、我が国の言語文化に対する自分の考えや思いをまとめることができていない。 | 主  Ａ：各作品について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |

**《古文編》**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 古文  入門 | 古典と文化・古文と古語／児のそら寝  （p.32～p.36） | ２ | ・古文を学習する意義を理解し、古文や古文に描かれた世界に関心を持つ。  ・古語と現代語の違いを理解する。  ・句読点に注意しながら、正しく音読する。  ・歴史的仮名遣いを理解する。  ・傍訳と脚注を参考にしながら、本文の内容を正しく理解する。  ・児の心情を的確に読み取り、この話のおもしろさを理解する。 | 知　(1)ア  Ａ：言葉の文化に関する働きとその価値を認識し、言葉の世界に対する関わりを実感している。  Ｂ：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  Ｃ：言葉に文化の発展と創造を支える働きがあることが理解できていない。  知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「児のそら寝」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「児のそら寝」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「児のそら寝」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「児のそら寝」について、作品や文章に表現されている歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「児のそら寝」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「児のそら寝」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 検非違使忠明のこと  （p.40～p.41） | １ | ・句読点に注意しながら、正しく音読する。  ・歴史的仮名遣いや、古語と現代語の違いを理解する。  ・傍訳と脚注を参考にして、本文の内容を正しく理解する。  ・動詞の活用など、古典文法の基礎を理解する。  ・話の展開を的確に読み取り、それに即して登場人物の心情をとらえる。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：｢検非違使忠明のこと｣について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に出来事の展開については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：｢検非違使忠明のこと｣について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：｢検非違使忠明のこと｣について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：｢検非違使忠明のこと｣について、作品や文章に表現されている歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：｢検非違使忠明のこと｣について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：｢検非違使忠明のこと｣について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 大江山  （p.42～p.43） | ２ | ・正しく音読し、現代語訳ができるようにする。  ・形容詞の活用など、古典文法の基礎を理解する。  ・和歌の修辞技法を理解する。  ・登場人物の関係性を把握する。  ・筆者が示している教訓を的確にとらえ、この話のおもしろさを理解する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「大江山」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「大江山」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「大江山」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「大江山」について、文章に表現されている歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「大江山」について、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「大江山」について、文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 花盗人の歌  （p.46～p.47） | １ | ・正しく音読し、現代語訳ができるようにする。  ・用言の活用など、古典文法の基礎を理解する。  ・和歌の修辞技法を理解する。  ・和歌に表現されている登場人物の心情を的確に捉える。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「花盗人の歌」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「花盗人の歌」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「花盗人の歌」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「花盗人の歌」から、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「花盗人の歌」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「花盗人の歌」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)オ  Ａ：「花盗人の歌」について、作品の認識の仕方や感受する姿勢が充実し、我が国の言語文化を継承していく一員としての自分のあるべき姿を展望できている。  B：「花盗人の歌」について、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもてている。  Ｃ：「花盗人の歌」について、作品の内容理解や解釈が十分でないため、我が国の言語文化に対する自分の考えや思いをまとめることができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 鷹使いの見た夢  （p.48～p.49） | １ | ・正しく音読し、現代語訳ができるようにする。  ・「ば」の用法など、古典文法の基礎を理解する。  ・当時の「夢」についての考え方を理解する。  ・話の展開をもとに「俗」の心情を想像し、手紙の形式で表現する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 書　(1)イ  Ａ：「鷹使いの見た夢」をもとに、自分の体験や思いが効果的に伝わる適切な表現技法を選択し、五感に訴えるような言葉の選択や組み立て方などを工夫している。  Ｂ：「鷹使いの見た夢」をもとに、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。  Ｃ：「鷹使いの見た夢」をもとに、自分の体験や思いをまとめることが十分でないため、効果的に伝えることができていない。 | 主  Ａ：教材から読み取った内容について感じたことを、表現に工夫してまとめることができている。  Ｂ：教材から読み取った内容について感じたことを、手紙の形式でまとめることができている。  Ｃ：教材について、感想をまとめることができている。 |
| 古文解析の実際　海賊の感泣（p.54～p.55） | １ | ・正しく音読し、傍訳と語注を参考にして現代語訳ができるようにする。  ・古文の内容を理解するための手順や方法を習得する。  ・正しい読解を通して主題をつかむ。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「海賊の感泣」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「海賊の感泣」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「海賊の感泣」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「海賊の感泣」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「海賊の感泣」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「海賊の感泣」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 随筆と  日記 | 徒然草  ［つれづれなるままに］  ［ある人、弓射ることを習ふに］  ［奥山に猫またといふもの］  ［丹波に出雲といふ所あり］  （p.56～p.61） | ５ | ・正しく音読し、傍訳と語注を参考にして現代語訳ができるようにする。  ・助動詞・助動詞など、古典文法の基礎を理解する。  ・観念性・抽象性の高い文章の内容を、構成や展開に即して的確に捉える。  ・随筆の主題を理解し、時代背景や当時の価値観を読み取る。  ・和文体・和漢混淆文体・説話体の文体の違いを理解し、優れた表現を味わう。  ・登場人物の行動や心情、または作者の考えなどを的確に捉え、各章段のおもしろさを理解する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「つれづれなるままに」「ある人、弓射ることを習ふに」「奥山に猫またといふもの」「丹波に出雲といふ所あり」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に筆者の考えについては叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「つれづれなるままに」「ある人、弓射ることを習ふに」「奥山に猫またといふもの」「丹波に出雲といふ所あり」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「つれづれなるままに」「ある人、弓射ることを習ふに」「奥山に猫またといふもの」「丹波に出雲といふ所あり」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「つれづれなるままに」「ある人、弓射ることを習ふに」「奥山に猫またといふもの」「丹波に出雲といふ所あり」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「つれづれなるままに」「ある人、弓射ることを習ふに」「奥山に猫またといふもの」「丹波に出雲といふ所あり」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「つれづれなるままに」「ある人、弓射ることを習ふに」「奥山に猫またといふもの」「丹波に出雲といふ所あり」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)ウ  Ａ：「奥山に猫またといふもの」について、文章の構成や展開、表現技法について優れている点だけでなく課題点も指摘し改善点を提案できている。  Ｂ：「奥山に猫またといふもの」について、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  Ｃ：「奥山に猫またといふもの」について、文章の構成や展開、表現方法を十分に読み取れず、的確に評価できていない。 | 主  Ａ：：「つれづれなるままに」「ある人、弓射ることを習ふに」「奥山に猫またといふもの」「丹波に出雲といふ所あり」教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 徒然草  ［花は盛りに］  （p.62～p.63）  比較で深める  兼好法師が詞のあげつらひ  （p.64） | １ | ・正しく音読し、傍訳と語注を参考にして現代語訳ができるようにする。  ・徒然草「花は盛りに」と玉勝間「兼好法師が詞のあげつらひ」を比較して読み、それぞれの筆者の主張を読み取る。  ・日本の古典文学と桜との深い関わりについて理解する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)イ  Ａ：「花は盛りに」「兼好法師が詞のあげつらひ」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「花は盛りに」「兼好法師が詞のあげつらひ」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「花は盛りに」「兼好法師が詞のあげつらひ」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)エ  Ａ：「花は盛りに」「兼好法師が詞のあげつらひ」について、作品や文章の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深めている。  Ｂ：「花は盛りに」「兼好法師が詞のあげつらひ」について、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  Ｃ：「花は盛りに」「兼好法師が詞のあげつらひ」について、作品や文章にの成立した歴史的・文化的な位置づけが把握できていない。  読　(1)オ  Ａ：「花は盛りに」「兼好法師が詞のあげつらひ」について、作品の認識の仕方や感受する姿勢が充実し、我が国の言語文化を継承していく一員としての自分のあるべき姿を展望できている。  Ｂ：「花は盛りに」「兼好法師が詞のあげつらひ」について、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもてている。  Ｃ：「花は盛りに」「兼好法師が詞のあげつらひ」について、作品の内容理解や解釈が十分でないため、我が国の言語文化に対する自分の考えや思いをまとめることができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 枕草子  ［春はあけぼの］  ［ありがたきもの］  ［九月ばかり］  （p.66～p.71） | ３ | ・古文の調子を味わいながら、的確に朗読したり、暗唱したりする。  ・語注を参考に、現代語訳ができるようにする。  ・助詞・助動詞など、古典文法の基礎を理解する。  ・随筆の内容を理解して、自然や人との関わりに対する作者の感情や思想を読み取る。  ・本文の表現上の特徴を捉え、それに倣って自分の考えを表現する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「春はあけぼの」「九月ばかり」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「春はあけぼの」「九月ばかり」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「春はあけぼの」「九月ばかり」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「春はあけぼの」「九月ばかり」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「春はあけぼの」「九月ばかり」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「春はあけぼの」「九月ばかり」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)オ  Ａ：「春はあけぼの」について、作品の認識の仕方や感受する姿勢が充実し、我が国の言語文化を継承していく一員としての自分のあるべき姿を展望できている。  Ｂ：「春はあけぼの」について、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもてている。  Ｃ：「春はあけぼの」について、作品の内容理解や解釈が十分でないため、我が国の言語文化に対する自分の考えや思いをまとめることができていない。  書　(1)ア  Ａ：「ありがたきもの」について、自分の知識や体験の中から我が国の言語文化に関わりの深い題材を決め、題材の価値を評価・検討して表現している。  Ｂ：「ありがたきもの」について、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。  Ｃ：「ありがたきもの」について、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、表現することができていない。  書　(1)イ  Ａ：「ありがたきもの」について、自分の体験や思いが効果的に伝わる適切な表現技法を選択し、五感に訴えるような言葉の選択や組み立て方などを工夫している。  Ｂ：「ありがたきもの」について、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。  Ｃ：「ありがたきもの」について、自分の体験や思いをまとめることが十分でないため、効果的に伝えることができていない。 | 主  Ａ：「春はあけぼの」「ありがたきもの」「九月ばかり」について、教材や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：「春はあけぼの」「ありがたきもの」「九月ばかり」について、教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：「春はあけぼの」「ありがたきもの」「九月ばかり」について、教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。  主  Ａ：「ありがたきもの」について、教材から読み取った内容をもとに、適切な題材を選び、表現に工夫してまとめることができている。  Ｂ：「ありがたきもの」について、教材から読み取った内容をもとに、適切な題材を選んでまとめることができている。  Ｃ：「ありがたきもの」について、教材から読み取った内容をもとに、形式に沿ってまとめることができている。 |
| 土佐日記  ［門出］  ［かしらの雪］  ［帰京］  （p.72～p.79） | ３ | ・正しく音読し、語注を参考にして現代語訳ができるようにする。  ・助動詞・助詞を中心に文法事項への理解を深め、古文の内容を正確に把握する力を養う。  ・古典常識についての理解を深める。  ・本文の表現上の工夫を理解し、それに倣った表現を用いて文章を書く。  ・日記に描かれた平安時代の旅の様子や登場する人々の心情を理解する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)イ  Ａ：「門出」について、古典作品や文章がもつ歴史的・文化的背景が、作品や文章に奥行きや豊饒さをもたらしていると理解を深めている。  Ｂ：「門出」について、古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。  Ｃ：「門出」について、古典作品の歴史的・文化的背景への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 書　(1)ア  Ａ：「門出」について、自分の知識や体験の中から我が国の言語文化に関わりの深い題材を決め、題材の価値を評価・検討して表現している。  Ｂ：「門出」について、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。  Ｃ：「門出」について、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、表現することができていない。  書　(1)イ  Ａ：「門出」について、自分の体験や思いが効果的に伝わる適切な表現技法を選択し、五感に訴えるような言葉の選択や組み立て方などを工夫している。  Ｂ：「門出」について、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。  Ｃ：「門出」について、自分の体験や思いをまとめることが十分でないため、効果的に伝えることができていない。  読　(1)ア  Ａ：「かしらの雪」「帰京」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「かしらの雪」「帰京」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「かしらの雪」「帰京」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「かしらの雪」「帰京」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「かしらの雪」「帰京」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「かしらの雪」「帰京」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。 | 主  Ａ：「門出」について、教材から読み取った内容をもとに、適切な題材を選び、表現に工夫してまとめることができている。  Ｂ：「門出」について、教材から読み取った内容をもとに、適切な題材を選んでまとめることができている。  Ｃ：「門出」について、教材から読み取った内容をもとに、形式に沿ってまとめることができている。  主  Ａ：「かしらの雪」「帰京」について、教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：「かしらの雪」「帰京」について、教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：「かしらの雪」「帰京」について、教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 物語と  軍記 | 竹取物語  ［なよ竹のかぐや姫］  ［かぐや姫の嘆き］  （p.82～p.88） | ４ | ・正しく音読し、語注を参考にして現代語訳ができるようにする。  ・助動詞や音便など文法事項への理解を深め、古文の内容を正確に把握する力を養う。  ・各場面の描写から、具体的な情景や登場人物の心情を読み取る。  ・敬語の学習への導入的知識を身につける。  ・作り物語の構成や展開のおもしろさを味わう。  ・物語における語りの構造や文体の特徴を理解する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「なよ竹のかぐや姫」「かぐや姫の嘆き」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「なよ竹のかぐや姫」「かぐや姫の嘆き」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「なよ竹のかぐや姫」「かぐや姫の嘆き」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「なよ竹のかぐや姫」「かぐや姫の嘆き」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「なよ竹のかぐや姫」「かぐや姫の嘆き」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「なよ竹のかぐや姫」「かぐや姫の嘆き」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)ウ  Ａ：「かぐや姫の嘆き」について、文章の構成や展開、表現技法について優れている点だけでなく課題点も指摘し改善点を提案できている。  Ｂ：「かぐや姫の嘆き」について、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している  Ｃ：「かぐや姫の嘆き」について、文章の構成や展開、表現方法を十分に読み取れず、的確に評価できていない。  読　(1)オ  Ａ：「なよ竹のかぐや姫」について、作品の認識の仕方や感受する姿勢が充実し、我が国の言語文化を継承していく一員としての自分のあるべき姿を展望できている。  B：「なよ竹のかぐや姫」について、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもてている。  Ｃ：「なよ竹のかぐや姫」について、作品の内容理解や解釈が十分でないため、我が国の言語文化に対する自分の考えや思いをまとめることができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 伊勢物語  ［芥川］  ［東下り］  ［筒井筒］  ［梓弓］  ［小野の雪］  （p.90～p.103） | ７ | ・正しく音読し、語注を参考にして現代語訳ができるようにする。  ・助詞や助動詞など文法事項への理解を深め、古文の内容を正確に把握する力を養う。  ・敬語表現の概要について理解する。・和歌の修辞技法への理解を深める。  ・歌物語における和歌の役割を理解する。  ・本文の展開や和歌の解釈に留意して内容を理解し、当時の社会のありさまや登場人物の心情を捉える。  ・登場人物の行動やその背景にある心情について、自分の考えを発表したり文章で表現したりできるようにする。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)イ  Ａ：「東下り」について、作品や文章がもつ歴史的・文化的背景が、作品や文章に奥行きや豊饒さをもたらしていると理解を深めている。  Ｂ：「東下り」について、作品の世界に親しむために、その歴史的・文化的背景などを理解している。  Ｃ：「東下り」について、歴史的・文化的背景への理解が十分にできてない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「芥川」「東下り」「筒井筒」「梓弓」「小野の雪」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「芥川」「東下り」「筒井筒」「梓弓」「小野の雪」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「芥川」「東下り」「筒井筒」「梓弓」「小野の雪」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「芥川」「東下り」「筒井筒」「梓弓」「小野の雪」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「芥川」「東下り」「筒井筒」「梓弓」「小野の雪」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「芥川」「東下り」「筒井筒」「梓弓」「小野の雪」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)エ  Ａ：「梓弓」について、作品や文章の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深めている。  Ｂ：「梓弓」について、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  Ｃ：「梓弓」について、作品や文章についての歴史的・文化的な位置づけが把握できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 平家物語  ［祇園精舎］  ［木曽の最期］  （p.104～p.113） | ４ | ・正しく音読し、語注を参考にして現代語訳ができるようにする。  ・係り結び、音便、敬語など文法事項への理解を深め、古文の内容を正確に把握する力を養う。  ・生き生きと音読し、語り物としての作品の魅力を味わう。  ・軍記物語の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。  ・物語の内容を理解し、登場人物の行動や心情を読み取る。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「祇園精舎」「木曽の最期」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「祇園精舎」「木曽の最期」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「祇園精舎」「木曽の最期」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「祇園精舎」「木曽の最期」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「祇園精舎」「木曽の最期」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「祇園精舎」「木曽の最期」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)ウ  Ａ：「祇園精舎」について、文章の構成や展開、表現技法について優れている点だけでなく課題点も指摘し改善点を提案できている。  Ｂ：「祇園精舎」について、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している  Ｃ：「祇園精舎」について、文章の構成や展開、表現方法を十分に読み取れず、的確に評価できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 和歌と  俳諧 | 万葉集  （p.116～p.118，p.124～p.125） | ３ | ・正しく音読し、語注を参考にして現代語訳ができるようにする。  ・重要語句や文法事項に注意しながら和歌の内容を把握し、和歌の中に率直に表現されている作者の心情を理解する。  ・「万葉集」の歌体、作者の幅、修辞技法の特徴について理解する。  ・著名歌人の文学史的な位置付けを理解する。  ・和歌の優れた表現に親しむ。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)オ  Ａ：表現の技法が詩歌等にとどまらず今日の評論や物語にも通じる技法としても効果を発揮すると理解し、文章を書く時などに使用している。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。  Ｃ：表現の技法について理解が十分でなく、その効果を味わうことができていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「万葉集」について、和歌を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現について読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「万葉集」について、和歌の表現的特徴を踏まえて、内容や構成について的確に捉えている。  Ｃ：「万葉集」について、和歌が何を伝えようとしているのか十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「万葉集」について、和歌に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「万葉集」について、和歌に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「万葉集」について、和歌に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)エ  Ａ：「万葉集」について、作品の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深めている。  Ｂ：「万葉集」について、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  Ｃ：「万葉集」について、作品についての歴史的・文化的な位置づけが把握できていない。 | 主  Ａ：教材について、和歌に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について和歌に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について和歌に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 古今和歌集  （p.120～p.121，p.124，p.126） | ２ | ・正しく音読し、語注を参考にして現代語訳ができるようにする。  ・重要語句や文法事項に注意しながら知的な「古今和歌集」の和歌の内容を把握し、読み込まれた心情を理解する。  ・和歌の修辞技法について理解を深める。  ・和歌の優れた表現に親しみ、古人の季節に対する繊細な感覚を理解する。  ・著名歌人や勅撰和歌集についての文学史的知識を持つ。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)オ  Ａ：表現の技法が詩歌等にとどまらず今日の評論や物語にも通じる技法としても効果を発揮すると理解し、文章を書く時などに使用している。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。  Ｃ：表現の技法について理解が十分でなく、その効果を味わうことができていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「古今和歌集」について、和歌を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現について読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「古今和歌集」について、和歌の表現的特徴を踏まえて、内容や構成について的確に捉えている。  Ｃ：「古今和歌集」について、和歌が何を伝えようとしているのか十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「古今和歌集」について、和歌に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「古今和歌集」について、和歌に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「古今和歌集」について、和歌に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)エ  Ａ：「古今和歌集」について、作品の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深めている。  Ｂ：「古今和歌集」について、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  Ｃ：「古今和歌集」について、作品についての歴史的・文化的な位置づけが把握できていない。 | 主  Ａ：教材について、和歌に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について和歌に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について、和歌に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 新古今和歌集  （p.122～p.124，p.126） | ２ | ・正しく音読し、語注を参考にして現代語訳ができるようにする。  ・重要語句や文法事項に注意しながら幽艶な「新古今和歌集」の和歌の内容を把握し、読み込まれた心情を理解する。  ・和歌の修辞技法について理解を深める。  ・和歌の優れた表現に親しむ。  ・著名歌人や勅撰和歌集についての文学史的知識を持つ。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)オ  Ａ：表現の技法が詩歌等にとどまらず今日の評論や物語にも通じる技法としても効果を発揮すると理解し、文章を書く時などに使用している。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。  Ｃ：表現の技法について理解が十分でなく、その効果を味わうことができていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「新古今和歌集」について、和歌を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現について読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「新古今和歌集」について、和歌の表現的特徴を踏まえて、内容や構成について的確に捉えている。  Ｃ：「新古今和歌集」について、和歌が何を伝えようとしているのか十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「新古今和歌集」について、和歌に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「新古今和歌集」について、和歌に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「新古今和歌集」について、和歌に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)エ  Ａ：「新古今和歌集」について、作品の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深めている。  Ｂ：「新古今和歌集」について、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  Ｃ：「新古今和歌集」について、作品についての歴史的・文化的な位置づけが把握できていない。 | 主  Ａ：教材について、和歌に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について和歌に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について、和歌に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 場所の記憶を残す恋歌　港千尋  （p.127～p.133） | ３ | ・話題の展開を把握し、筆者の主要な見解をつかむ。  ・和歌における歌枕の役割を理解し、歌枕を効果的に用いた和歌を詠む。 | 知　(1)イ  Ａ：常用漢字の表記を文脈に応じて使い分けるだけでなく、仮名を用いて読みやすくすることにも配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(1)オ  Ａ：表現の技法が詩歌等にとどまらず今日の評論や物語にも通じる技法としても効果を発揮すると理解し、文章を書く時などに使用している。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している  Ｃ：表現の技法について理解が十分でなく、その効果を味わうことができていない。  知　(2)カ  Ａ：我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用を理解し、読書に対する自分の興味や関心の幅を広げている。  Ｂ：我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。  Ｃ：我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用が十分にできていない。 | 書　(1)ア  Ａ：「場所の記憶を残す恋歌」について、自分の知識や体験の中から我が国の言語文化に関わりの深い題材を決め、題材の価値を評価・検討して表現している。  Ｂ：「場所の記憶を残す恋歌」について、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。  Ｃ：「場所の記憶を残す恋歌」について、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、表現することができていない。  書　(1)イ  Ａ：「場所の記憶を残す恋歌」について、自分の体験や思いが効果的に伝わる適切な表現技法を選択し、五感に訴えるような言葉の選択や組み立て方などを工夫している。  Ｂ：「場所の記憶を残す恋歌」について、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。  Ｃ：「場所の記憶を残す恋歌」について、自分の体験や思いをまとめることが十分でないため、効果的に伝えることができていない。 | 主  Ａ：教材から読み取った内容をもとに、適切な題材を選び、表現に工夫してまとめることができている。  Ｂ：教材から読み取った内容をもとに、適切な題材を選んでまとめることができている。  Ｃ：教材から読み取った内容をもとに、形式に沿ってまとめることができている。 |
| 奥の細道  ［旅こそ栖］  ［那須野の少女］  ［平泉懐古］  （p.134～p.141） | ３ | ・正しく音読し、対句や漢語の使用によって生じる文の調子を味わう。  ・俳文における俳諧の役割を理解する。  ・俳諧の優れた表現に親しむ。  ・俳諧の修辞技法を理解する。  ・俳諧紀行文に描かれた旅の情景や作者の心情を読み味わう。  ・人生を旅と見る芭蕉の人生観に触れ、ものの見方・感じ方を深める。  ・表現上の工夫を理解し、それに倣いながら、身近な事柄を文章や俳句で表現する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)イ  Ａ：「旅こそ栖」について、古典作品や文章がもつ歴史的・文化的背景が、作品や文章に奥行きや豊饒さをもたらしていると理解を深めている。  Ｂ：「旅こそ栖」について、古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。  Ｃ：「旅こそ栖」について、古典作品の歴史的・文化的背景への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「旅こそ栖」「那須野の少女」について、俳諧紀行文を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現について読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「旅こそ栖」「那須野の少女」について、俳諧紀行文の表現的特徴を踏まえて、内容や構成について的確に捉えている。  Ｃ：「旅こそ栖」「那須野の少女」について、俳諧紀行文が何を伝えようとしているのか十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「旅こそ栖」「那須野の少女」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「旅こそ栖」「那須野の少女」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「旅こそ栖」「那須野の少女」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)ウ  Ａ：「旅こそ栖」について、文章の構成や展開、表現技法について優れている点だけでなく課題点も指摘し改善点を提案できている。  Ｂ：「旅こそ栖」について、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  Ｃ：「旅こそ栖」について、文章の構成や展開、表現方法を十分に読み取れず、的確に評価できていない。  書　(1)ア  Ａ：「平泉懐古」を参考に、自分の知識や体験の中から我が国の言語文化に関わりの深い題材を決め、題材の価値を評価・検討して表現している。  Ｂ：「平泉懐古」を参考に、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。  Ｃ：「平泉懐古」を参考に、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、表現することができていない。  書　(1)イ  Ａ：「平泉懐古」を参考に、自分の体験や思いが効果的に伝わる適切な表現技法を選択し、五感に訴えるような言葉の選択や組み立て方などを工夫している。  Ｂ：「平泉懐古」を参考に、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。  Ｃ：「平泉懐古」を参考に、自分の体験や思いをまとめることが十分でないため、効果的に伝えることができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 翻案  ―中国の古典から日本の古典へ― | 簫史と弄玉  （p.144～p.146） | ２ | ・漢文をもとに翻案された古文作品を読んで、もとの漢文作品との共通点や相違点を捉える。  ・翻案作品が書かれた時代の背景などを踏まえ、翻案作品に込められた作者の意図や工夫を発見する。  ・この話において「月」が果たしている役割を理解する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「簫史と弄玉」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現について読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「簫史と弄玉」について、文章の表現的特徴を踏まえて、内容や構成について的確に捉えている。  Ｃ：「簫史と弄玉」について、文章が何を伝えようとしているのか十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「簫史と弄玉」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「簫史と弄玉」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「簫史と弄玉」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)ウ  Ａ：「簫史と弄玉」について、文章の構成や展開、表現技法について優れている点だけでなく課題点も指摘し改善点を提案できている。  Ｂ：「簫史と弄玉」について、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  Ｃ：「簫史と弄玉」について、文章の構成や展開、表現方法を十分に読み取れず、的確に評価できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 怪を語れば怪至る  （p.146～p.148） | ２ | ・漢文をもとに翻案された古文作品を読んで、もとの漢文作品との共通点や相違点を捉える。  ・翻案作品が書かれた時代の背景などを踏まえ、翻案作品に込められた作者の意図や工夫を発見する。  ・この話の最後の一文から読み取れる「伽婢子」の編集意図を理解する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「怪を語れば怪至る」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現について読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「怪を語れば怪至る」について、文章の表現的特徴を踏まえて、内容や構成について的確に捉えている。  Ｃ：「怪を語れば怪至る」について、文章が何を伝えようとしているのか十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「怪を語れば怪至る」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：怪を語れば怪至る」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「怪を語れば怪至る」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)ウ  Ａ：「怪を語れば怪至る」を読み、文章の構成や展開、表現技法について優れている点だけでなく課題点も指摘し改善点を提案できている。  Ｂ：「怪を語れば怪至る」について、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  Ｃ：「怪を語れば怪至る」について、文章の構成や展開、表現方法を十分に読み取れず、的確に評価できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |

**《漢文編》**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 漢文  入門 | 漢文を学習するということ／漢文の基礎  （p.159～p.167） | ３ | ・漢文を学習する意義を認識する。  ・漢文の構造と訓読の方法について理解する。  ・漢語の構造に日本文と語順が同じものと語順が異なるものとがあることを理解する。  ・漢文訓読によって出来上がる「漢文脈」について認識する」  ・頻出する漢文の基本構造について理解する。 | 知　(1)ア  Ａ：「漢文を学習するということ」を通して、言葉の文化に関する働きとその価値を認識し、言葉の世界に対する関わりを実感している。  Ｂ：「漢文を学習するということ」を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  Ｃ：「漢文を学習するということ」を通して、言葉に文化の発展と創造を支える働きがあることが理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：「漢文を学習するということ」を通して、我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：「漢文を学習するということ」を通して、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：「漢文を学習するということ」を通して、我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：「漢文の基礎」について、訓読のきまりについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：「漢文の基礎」について、訓読のきまりについて正しく理解している。  Ｃ：「漢文の基礎」について、訓読のきまりについての理解が十分にできていない。 |  | 主  Ａ：返り点や書き下し文の決まりに則って、漢文を書き下し文に改める練習を繰り返し行っている。  Ｂ：返り点や書き下し文の決まりに則って、漢文を書き下し文に改めることができる。  Ｃ：返り点や書き下し文の決まりに則って、漢文を書き下し文を正しく改めることができていない。 |
| 推敲  （p.168～p.169） | １ | ・音読を繰り返して訓読に慣れる。  ・「推敲」という言葉の意味と由来を理解する。  ・登場人物や時代背景に注意しながら内容を理解する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)イ  Ａ：古典作品や文章がもつ歴史的・文化的背景が、作品や文章に奥行きや豊饒さをもたらしていると理解を深めている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。  Ｃ：古典作品の歴史的・文化的背景への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「推敲」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「推敲」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「推敲」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「推敲」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「推敲」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「推敲」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)エ  Ａ：「推敲」について、作品や文章の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深めている。  Ｂ：「推敲」について、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  Ｃ：「推敲」について、作品や文章について成立した歴史的・文化的な位置づけが把握できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 漁父之利  （p.170～p.171） | １ | ・音読を繰り返して訓読に慣れる。  ・「漁父の利」という言葉の意味と由来を理解する。  ・登場人物や時代背景に注意しながら内容を理解する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「漁父之利」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「漁父之利」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「漁父之利」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「漁父之利」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「漁父之利」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「漁父之利」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 知音  （p.172～p.173） | １ | ・音読を繰り返して訓読に慣れる。  ・登場人物の関係や比喩表現に注意しながら内容を理解する。  ・「知音」という言葉の意味と由来を理解する。  ・「知音」の例話にこめられた作者の考えを理解する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「知音」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「知音」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「知音」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「知音」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「知音」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「知音」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているも  　のの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている  　感じ方、考え方を把握できている。 |
| 朝三暮四  （p.174～p.175） | １ | ・音読を繰り返して訓読に慣れる。  ・展開に注意しながら内容を理解する。  ・「朝三暮四」という言葉の意味と由来を理解する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「朝三暮四」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「朝三暮四」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「朝三暮四」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「朝三暮四」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「朝三暮四」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「朝三暮四」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 塞翁馬  （p.176～p.178） | ２ | ・音読を繰り返して訓読に慣れる。  ・話の構成を理解し、事件の経過を正確に読み取る。  ・指示語を具体化しながらわかりやすく現代語訳する。  ・故事成語への理解を深める。  ・登場人物の考え方を理解し、その考え方を現代の世界においてどのように生かすことができるか、具体的に述べることができる。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 書　(1)ア  Ａ：「塞翁馬」について、自分の知識や体験の中から我が国の言語文化に関わりの深い題材を決め、題材の価値を評価・検討して表現している。  Ｂ：「塞翁馬」について、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。  Ｃ：「塞翁馬」について、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、表現することができていない。  書　(1)イ  Ａ：「塞翁馬」について、自分の体験や思いが効果的に伝わる適切な表現技法を選択し、五感に訴えるような言葉の選択や組み立て方などを工夫している。  Ｂ：「塞翁馬」について、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。  Ｃ：「塞翁馬」について、自分の体験や思いをまとめることが十分でないため、効果的に伝えることができていない。 | 主  Ａ：教材から読み取った内容をもとに、適切な題材を選び、表現に工夫してまとめることができている。  Ｂ：教材から読み取った内容をもとに、適切な題材を選んでまとめることができている。  Ｃ：教材から読み取った内容をもとに、形式に沿ってまとめることができている。 |
| 漢文解析の実際　性緩  （p.180～p.181） | １ | ・正しく音読し、傍訳と語注を参考にして現代語訳ができるようにする。  ・漢文を読解するのに必要な項目を確認する。  ・登場人物の関係に注意しながら内容を理解する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「性緩」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「性緩」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「性緩」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「性緩」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「性緩」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「性緩」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 史伝 | 鶏口牛後  （p.182～p.183） | １ | ・音読を繰り返して長文の漢文に慣れる。  ・登場人物の行動に注意しながら内容を正確に読み取り、人間を生き生きと描いた史伝の魅力を味わう。  ・「鶏口牛後」という言葉の意味と由来を理解する。  ・舞台となる春秋時代について理解を深め、史伝に描かれた古代中国の人々の生き方について考察する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「鶏口牛後」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「鶏口牛後」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「鶏口牛後」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「鶏口牛後」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「鶏口牛後」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「鶏口牛後」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)エ  Ａ：「鶏口牛後」について、作品や文章の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深めている。  Ｂ：「鶏口牛後」について、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  Ｃ：「鶏口牛後」について、作品や文章について成立した歴史的・文化的な位置づけが把握できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 鶏鳴狗盗  （p.184～p.186） | ２ | ・音読を繰り返して長文の漢文に慣れる。  ・登場人物の行動に注意しながら内容を正確に読み取り、人間を生き生きと描いた史伝の魅力を味わう。  ・「鶏鳴狗盗」という言葉の意味と由来を理解する。  ・漢文の史伝と日本の古典文学との関連について理解を深める。  ・舞台となる春秋時代について理解を深め、史伝に描かれた古代中国の人々の生き方について考察する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)イ  Ａ：古典作品や文章がもつ歴史的・文化的背景が、作品や文章に奥行きや豊饒さをもたらしていると理解を深めている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。  Ｃ：古典作品の歴史的・文化的背景への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「鶏鳴狗盗」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「鶏鳴狗盗」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「鶏鳴狗盗」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「鶏鳴狗盗」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「鶏鳴狗盗」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「鶏鳴狗盗」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)エ  Ａ：「鶏鳴狗盗」について、作品や文章の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深めている。  Ｂ：「鶏鳴狗盗」について、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  Ｃ：「鶏鳴狗盗」について、作品や文章について成立した歴史的・文化的な位置づけが把握できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 管鮑之交  （p.188～p.190） | ２ | ・音読を繰り返して長文の漢文に慣れる。  ・登場人物の行動と発言に注意しながら内容を読み取り、人間を生き生きと描いた史伝の魅力を味わう。  ・「管鮑の交わり」という言葉の意味と由来を理解する。  ・舞台となる春秋時代について理解を深め、史伝に描かれた古代中国の人々の生き方について考察する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「管鮑之交」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「管鮑之交」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「管鮑之交」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「管鮑之交」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「管鮑之交」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「管鮑之交」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 臥薪嘗胆  （p.191～p.193） | ２ | ・音読を繰り返して長文の漢文に慣れる。  ・人間や人間関係を生き生きと描いた史伝の魅力を味わう。  ・「臥薪嘗胆」という言葉の意味と由来を理解する。  ・史伝の舞台となる春秋時代の状況について理解を深め、史伝に描かれた古代中国の人々の生き方について考察する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「臥薪嘗胆」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「臥薪嘗胆」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「臥薪嘗胆」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「臥薪嘗胆」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「臥薪嘗胆」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「臥薪嘗胆」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 詩文 | 五言絶句／七言絶句  ［絶句］  ［登鸛鵲楼］  ［早発白帝城］  ［送元二使安西］  ［楓橋夜泊］  ［涼州詞］  （p.194～p.199） | ２ | ・絶句を音読し、それぞれの詩のリズムを味わう。  ・漢詩の簡潔な表現に込められた内容や情感を理解する。  ・絶句の表現形式について理解する。  ・杜甫、李白、王維など主要な詩人について、文学史的知識を持つ。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「絶句」「登鸛鵲楼」「早発白帝城」「送元二使安西」「楓橋夜泊」「涼州詞」について、詩を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「絶句」「登鸛鵲楼」「早発白帝城」「送元二使安西」「楓橋夜泊」「涼州詞」について、詩の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「絶句」「登鸛鵲楼」「早発白帝城」「送元二使安西」「楓橋夜泊」「涼州詞」について、詩が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「絶句」「登鸛鵲楼」「早発白帝城」「送元二使安西」「楓橋夜泊」「涼州詞」について、詩に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「絶句」「登鸛鵲楼」「早発白帝城」「送元二使安西」「楓橋夜泊」「涼州詞」について、詩に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「絶句」「登鸛鵲楼」「早発白帝城」「送元二使安西」「楓橋夜泊」「涼州詞」について、詩に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)ウ  Ａ：「絶句」「登鸛鵲楼」「早発白帝城」「送元二使安西」「楓橋夜泊」「涼州詞」について、詩の構成や展開、表現技法について優れている点だけでなく課題点も指摘し改善点を提案できている。  Ｂ：「絶句」「登鸛鵲楼」「早発白帝城」「送元二使安西」「楓橋夜泊」「涼州詞」について、詩の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  Ｃ：「絶句」「登鸛鵲楼」「早発白帝城」「送元二使安西」「楓橋夜泊」「涼州詞」について、詩の構成や展開、表現方法を十分に読み取れず、的確に評価できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 五言律詩  ［登岳陽楼］  ［送友人]  （p.200～p.201） | ２ | ・律詩を音読し、それぞれの詩のリズムを味わう。  ・漢詩の簡潔な表現に込められた内容や情感を理解する。  ・律詩の表現形式について理解する。  ・杜甫、李白について、文学史的知識を持つ。  ・白居易の文学が日本の古典文学に与えた影響について理解する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「登岳陽楼」「送友人」について、詩を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「登岳陽楼」「送友人」について、詩の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「登岳陽楼」「送友人」について、詩が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「登岳陽楼」「送友人」について、詩に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「登岳陽楼」「送友人」について、詩に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「登岳陽楼」「送友人」について、詩に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)ウ  Ａ：「登岳陽楼」「送友人」について、詩の構成や展開、表現技法について優れている点だけでなく課題点も指摘し改善点を提案できている。  Ｂ：「登岳陽楼」「送友人」について、詩の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  Ｃ：「登岳陽楼」「送友人」について、詩の構成や展開、表現方法を十分に読み取れず、的確に評価できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 七言律詩  ［八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九］  （p.202）  比較で深める  聞白楽天左降江州司馬  （p.203） | １ | ・絶句を音読し、詩のリズムを味わう。  ・漢詩の簡潔な表現に込められた内容や情感を理解する。  ・絶句の表現形式について理解する。  ・「八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九」と「聞白楽天左降江州司馬」を比較して読み、白居易と元稹が置かれた状況をそれぞれ理解し、互いを思いやる心情を理解する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九」「聞白楽天左降江州司馬」について、詩を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九」「聞白楽天左降江州司馬」について、詩の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九」「聞白楽天左降江州司馬」について、詩が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九」と「聞白楽天左降江州司馬」を比較しながら、詩に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九」と「聞白楽天左降江州司馬」を比較しながら、詩に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ「八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九」と「聞白楽天左降江州司馬」の比較において、詩に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)ウ  Ａ：「八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九」「聞白楽天左降江州司馬」について、詩の構成や展開、表現技法について優れている点だけでなく課題点も指摘し改善点を提案できている。  Ｂ：「八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九」「聞白楽天左降江州司馬」について、詩の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  Ｃ：「八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九」「聞白楽天左降江州司馬」について、詩の構成や展開、表現方法を十分に読み取れず、的確に評価できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されて  いる書き手の人生観や、歴史や文化  に対する価値観などを読み取り、内  容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているも  のの見方、感じ方、考え方を捉え、  内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている  感じ方、考え方を把握できている。 |
| 古典の魅力―現代からの視点  友情　松浦友久  （p.204～p.209） | ２ | ・現代からの視点で漢詩を捉える。  ・話題の展開を把握し、筆者の主要な見解をつかむ。  ・中国の社会と人間関係の中で漢詩が果たした役割を理解する。  ・漢詩の主題としての友情について理解する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(2)イ  Ａ：古典作品や文章がもつ歴史的・文化的背景が、作品や文章に奥行きや豊饒さをもたらしていると理解を深めている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。  Ｃ：古典作品の歴史的・文化的背景への理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「友情」について、詩を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「友情」について、詩の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「友情」について、詩が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「友情」について、詩に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「友情」について、詩に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「友情」について、詩に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)ウ  Ａ：「友情」について、詩の構成や展開、表現技法について優れている点だけでなく課題点も指摘し改善点を提案できている。  Ｂ：「友情」について、詩の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  Ｃ：「友情」について、詩の構成や展開、表現方法を十分に読み取れず、的確に評価できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されて  　いる書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内  　容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているも  　のの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 雑説  （p.210～p.211） | １ | ・名文と呼ばれる文章を読み、作者のものの見方や考え方を理解する。  ・唐宋八大家について学び、韓愈の文章にその特徴がどのように表れているか理解する。  ・論説文としての論旨の展開と巧みな比喩（隠喩）表現を把握して内容を捉え、作者の主張を理解する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「雑説」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に作者の主張については叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「雑説」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「雑説」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「雑説」について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「雑説」について、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「雑説」について、文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 愛蓮説  （p.212～p.213） | １ | ・名文と呼ばれる文章を読み、作者のものの見方や考え方を理解する。  ・論説文としての論旨の展開と巧みな比喩（隠喩）表現を把握し、主題を理解する。  ・陶淵明が菊の花を描いた作品について調べ、陶淵明の思いについて考えを深める。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)イ  Ａ：古典作品や文章がもつ歴史的・文化的背景が、作品や文章に奥行きや豊饒さをもたらしていると理解を深めている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。  Ｃ：古典作品の歴史的・文化的背景への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「愛蓮説」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に筆者の考えについては叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「愛蓮説」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「愛蓮説」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「愛蓮説」について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「愛蓮説」について、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「愛蓮説」について、文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)エ  Ａ：「愛蓮説」について、作品や文章の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深めている。  Ｂ：「愛蓮説」について、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  Ｃ：「愛蓮説」について、作品や文章について成立した歴史的・文化的な位置づけが把握できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 思想 | 論語  （p.218～p.222） | ３ | ・「論語」の一字一句に込められた意味を丁寧に読み取る。  ・「学問と自省」「人生と政治」という観点から、儒家思想の概略を理解する。  ・孔子のものの見方や考え方を学んで理解し、自分の考えを深める。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)イ  Ａ：古典作品や文章がもつ歴史的・文化的背景が、作品や文章に奥行きや豊饒さをもたらしていると理解を深めている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。  Ｃ：古典作品の歴史的・文化的背景への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「論語」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に孔子の考えについては叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「論語」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「論語」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「論語」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「論語」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「論語」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 孟子  （p.224～p.226） | ３ | ・孔子の思想を発展させた孟子の思想について理解する。  ・巧みな論旨展開や表現上の工夫を理解し、「孟子」の文章の魅力を味わう。  ・孟子の考えを、現代における「五十歩百歩」の意味と照らし合わせながら理解する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)ウ  Ａ：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しみを感じている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  Ｃ：古典を読むために必要なきまりごとへの理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「孟子」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に孔子の考えについては叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「孟子」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「孟子」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「孟子」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「孟子」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「孟子」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  することができていない。  読　(1)オ  Ａ：「孟子」について、作品の認識の仕方や感受する姿勢が充実し、我が国の言語文化を継承していく一員としての自分のあるべき姿を展望できている。  Ｂ：「孟子」について、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもてている。  Ｃ：「孟子」について、作品の内容理解や解釈が十分でないため、我が国の言語文化に対する自分の考えや思いをまとめることができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 日本の漢文 | 読家書  蛍  無題  （p.228～p.230） | １ | ・日本人によって書かれた漢詩を読み、日本文学と漢詩の関わりについて理解を深める。  ・漢詩を音読し、それぞれの詩のリズムを味わう。  ・漢詩の簡潔な表現に込められた内容や情感を理解する。  ・菅原道真、菅茶山、夏目漱石についての知識をもとに、漢詩を深く鑑賞する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。 | 読　(1)エ  Ａ：「読家書」「蛍」「無題」について、詩の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深めている。  Ｂ：「読家書」「蛍」「無題」について、詩の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  Ｃ：「読家書」「蛍」「無題」について、詩の成立した歴史的・文化的な位置づけが把握できていない。  読　(1)オ  Ａ：「読家書」「蛍」「無題」について、作品の認識の仕方や感受する姿勢が充実し、我が国の言語文化を継承していく一員としての自分のあるべき姿を展望できている。  Ｂ：「読家書」「蛍」「無題」について、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもてている。  Ｃ：「読家書」「蛍」「無題」について、作品の内容理解や解釈が十分でないため、我が国の言語文化に対する自分の考えや思いをまとめることができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 野中兼山  （p.231～p.232） | １ | ・日本人によって書かれた漢文を読み、日本文学と漢文の関わりについて理解を深める。  ・登場人物の行動や物語の展開に注意して、内容を理解する。  ・野中兼山の行動について、現代の施策と照らし合わせながら考察する。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)イ  Ａ：古典作品や文章がもつ歴史的・文化的背景が、作品や文章に奥行きや豊饒さをもたらしていると理解を深めている。  Ｂ：古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。  Ｃ：古典作品の歴史的・文化的背景への理解が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「野中兼山」について、文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に登場人物のの考えについては叙述を基に読み取れるものを的確に過不足なく捉えられている。  Ｂ：「野中兼山」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  Ｃ：「野中兼山」について、文章が何を伝えようとしているのか叙述から十分に捉えられていない。  読　(1)イ  Ａ：「野中兼山」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「野中兼山」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「野中兼山」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |

**《近代以降の文章編》**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 近代の小説 | 言語文化の近代　――「自分」と外界／羅生門　芥川龍之介  （p.238～p.252）  比較で深める  羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと  （p.253～p.255） | ５ | ・近代以降の文体の変遷と「自分」の関係について理解を深める。  ・話の展開や主題の把握など、小説を読む基本的な方法を習得する。  ・登場人物の心理や行動の意味を、表現に即して的確に読み取る。  ・結末部分の改稿について考察し、表現上の効果の違いを捉える。  ・「羅生門」と「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと」を読み比べ、近代文学が古典作品から受けた影響について理解する。 | 知　(1)イ  Ａ：「羅生門」において、常用漢字の表記を文脈に応じて使い分けるだけでなく、仮名を用いて読みやすくすることにも配慮している。  Ｂ：「羅生門」において、常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：「羅生門」において、常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)ウ  Ａ：「羅生門」「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと」において、我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：「羅生門」「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと」において、我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：「羅生門」「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと」において、我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：「羅生門」「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと」において、文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：「羅生門」「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと」において、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：「羅生門」「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと」において、文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：「言語文化の近代」において、我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている。  Ｂ：「言語文化の近代」において、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  Ｃ：「言語文化の近代」において、我が国の言語文化や外国の文化との関係性への理解が十分にできていない。  知　(2)オ  Ａ：「言語文化の近代」において、言文一致や歴史的な文体の変化について理解を深め、言語が歴史的流れの中にあることを理解している。  Ｂ：「言語文化の近代」において、歴史的な文体の変化について理解している。  Ｃ：「言語文化の近代」において、歴史的な文体の変化を十分に理解できていない。  知　(2)カ  Ａ：「羅生門」において、我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用を理解し、読書に対する自分の興味や関心の幅を広げている。  Ｂ：「羅生門」において、我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。  Ｃ：「羅生門」において、我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用が十分にできていない。 | 読　(1)ウ  Ａ：「羅生門」「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと」について、文章の構成や展開、表現技法について優れている点だけでなく課題点も指摘し改善点を提案できている。  Ｂ：「羅生門」「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと」について、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  Ｃ：「羅生門」「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと」について、文章の構成や展開、表現方法を十分に読み取れず、的確に評価できていない。  読　(1)エ  Ａ：「羅生門」「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと」について、作品や文章の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深めている。  Ｂ：「羅生門」「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと」について、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  Ｃ：「羅生門」「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと」について、作品や文章について成立した歴史的・文化的な位置づけが把握できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 城の崎にて　志賀直哉  （p.256～p.267） | ４ | ・小説の読み方を習得する。  ・物語の展開に即して主人公の心理や行動を的確に読み取る。  ・作品中の表現の効果について考えを深める。  ・作品の主題について考えを深める。 | 知　(1)イ  Ａ：常用漢字の表記を文脈に応じて使い分けるだけでなく、仮名を用いて読みやすくすることにも配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)カ  Ａ：我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用を理解し、読書に対する自分の興味や関心の幅を広げている。  Ｂ：我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。  Ｃ：我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用が十分にできていない。 | 読　(1)イ  Ａ：「城の崎にて」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「城の崎にて」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「城の崎にて」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)エ  Ａ：「城の崎にて」について、作品や文章の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深めている。  Ｂ：「城の崎にて」について、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  Ｃ：「城の崎にて」について、作品や文章について成立した歴史的・文化的な位置づけが把握できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 蠅　横光利一  （p.268～p.278） | ４ | ・小説の読み方を習得する。  ・物語の展開に即して登場人物の心理や行動を的確に読み取る。  ・作品における「蠅」の役割など、作品構成の特徴を的確に捉える。  ・作品の結末が示している意味について考えを深める。 | 知　(1)イ  Ａ：常用漢字の表記を文脈に応じて使い分けるだけでなく、仮名を用いて読みやすくすることにも配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)カ  Ａ：我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用を理解し、読書に対する自分の興味や関心の幅を広げている。  Ｂ：我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。  Ｃ：我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用が十分にできていない。 | 読　(1)イ  Ａ：「蠅」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「蠅」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「蠅」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)エ  Ａ：「蠅」について、作品や文章の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深めている。  Ｂ：「蠅」について、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  Ｃ：「蠅」について、作品や文章について成立した歴史的・文化的な位置づけが把握できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 猿が島　太宰治  （p.279～p.287） | ４ | ・小説の読み方を習得する。  ・物語の展開や登場人物の心の動きにを的確に読み取り、まとまった分量の小説を読み味わう。  ・語りの特色や象徴的な表現の効果を捉える。  ・作品の主題について考えを深める。 | 知　(1)イ  Ａ：常用漢字の表記を文脈に応じて使い分けるだけでなく、仮名を用いて読みやすくすることにも配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)カ  Ａ：我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用を理解し、読書に対する自分の興味や関心の幅を広げている。  Ｂ：我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。  Ｃ：我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用が十分にできていない。 | 読　(1)イ  Ａ：「猿が島」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「猿が島」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「猿が島」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)エ  Ａ：「猿が島」について、作品や文章の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深めている。  Ｂ：「猿が島」について、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  Ｃ：「猿が島」について、作品や文章について成立した歴史的・文化的な位置づけが把握できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 近代の文体 | 文体の変遷  （p.288～p.293） | ２ | ・明治期の小説の文体をもとに、書き言葉の変遷を捉える。  ・一人称の表現や一文の長短、文末のバリエーションなど、文体の変遷の中に表れる表現上の特徴を捉える。  ・明治期の代表的な作家について文学史的知識を身につける。  ・西洋の新しい概念を取り入れる際に役割を果たした漢語の性質について理解する。 | 知　(1)ア  Ａ：言葉の文化に関する働きとその価値を認識し、言葉の世界に対する関わりを実感している。  Ｂ：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  Ｃ：言葉に文化の発展と創造を支える働きがあることが理解できていない。  知　(2)オ  Ａ：言文一致や歴史的な文体の変化について理解を深め、言語が歴史的流れの中にあることを理解している。  Ｂ：言文一致や和漢混交文などの歴史的な文体の変化について理解している。  Ｃ：言文一致や和漢混交文などの歴史的な文体の変化を十分に理解できていない。 | 読　(1)ウ  Ａ：「文体の変遷」の各文について、文章の構成や展開、表現技法について優れている点だけでなく課題点も指摘し改善点を提案できている。  Ｂ「文体の変遷」の各文について、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  Ｃ：「文体の変遷」の各文について、文章の構成や展開、表現方法を十分に読み取れず、的確に評価できていない。  読　(1)エ  Ａ：「文体の変遷」について、作品や文章の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深めている。  Ｂ：「文体の変遷」について、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  Ｃ：「文体の変遷」について、作品や文章について成立した歴史的・文化的な位置づけが把握できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 近代の詩 | 小諸なる古城のほとり  道程  蟬頃  甃のうへ  （p.294～p.299） | ３ | ・詩の基本的な読み方を習得する。  ・繰り返し音読して詩に親しみ、リズムや叙情を味わう。  ・詩の形式や表現の特質を理解する。  ・作品に詠まれている自然や人生、生活を味わい、自然や人間を見る目を養い、感性や想像力を豊かにする。 | 知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。 | 読　(1)ウ  Ａ：「小諸なる古城のほとり」「道程」「蟬頃」「甃のうへ」について、詩の構成や展開、表現技法について優れている点だけでなく課題点も指摘し改善点を提案できている。  Ｂ：「小諸なる古城のほとり」「道程」「蟬頃」「甃のうへ」について、詩の特色について評価している。  Ｃ：「小諸なる古城のほとり」「道程」「蟬頃」「甃のうへ」について、詩の構成や展開、表現方法を十分に読み取れず、的確に評価できていない。  読　(1)オ  Ａ：「小諸なる古城のほとり」「道程」「蟬頃」「甃のうへ」について、作品の認識の仕方や感受する姿勢が充実し、我が国の言語文化を継承していく一員としての自分のあるべき姿を展望できている。  Ｂ：「小諸なる古城のほとり」「道程」「蟬頃」「甃のうへ」について、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもてている。  Ｃ：「小諸なる古城のほとり」「道程」「蟬頃」「甃のうへ」について、作品の内容理解や解釈が十分でないため、我が国の言語文化に対する自分の考えや思いをまとめることができていない。 | 主  Ａ：教材について、詩に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について詩に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について、詩に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 近代の短歌・俳句 | 近代の短歌　八首  （p.300～p.301，p.305） | ５ | ・短歌の基本的な読み方を習得する。  ・繰り返し音読して短歌に親しみ、リズムや叙情を味わう。  ・短詩型文学固有の表現の特質を理解する。  ・作品に詠まれている自然や人生、生活を味わい、自然や人間を見る目を養い、感性や想像力を豊かにする。  ・表現技法や書写の能力を生かして、効果的に短歌を書き表す。 | 知　(1)ア  Ａ：言葉の文化に関する働きとその価値を認識し、言葉の世界に対する関わりを実感している。  Ｂ：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  Ｃ：言葉に文化の発展と創造を支える働きがあることが理解できていない。  知　(1)オ  Ａ：本歌取りや見立てなどの表現の技法が詩歌等にとどまらず今日の評論や物語にも通じる技法としても効果を発揮すると理解し、文章を書く時などに使用している。  Ｂ：本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。  Ｃ：本歌取りや見立ての技法について理解が十分でなく、その効果を味わうことができていない。 | 書　(1)ア  Ａ：「近代の短歌　八首」について、自分の知識や体験の中から我が国の言語文化に関わりの深い題材を決め、題材の価値を評価・検討して表現している。  Ｂ：「近代の短歌　八首」について、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。  Ｃ：「近代の短歌　八首」について、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、表現することができていない。  書　(1)イ  Ａ：「近代の短歌　八首」について、自分の体験や思いが効果的に伝わる適切な表現技法を選択し、五感に訴えるような言葉の選択や組み立て方などを工夫している。  Ｂ：「近代の短歌　八首」について、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。  Ｃ：「近代の短歌　八首」について、自分の体験や思いをまとめることが十分でないため、効果的に伝えることができていない。 | 主  Ａ：教材から読み取った内容を参考に、適切な題材を選び、表現に工夫してまとめることができている。  Ｂ：教材から読み取った内容を参考に、適切な題材を選んでまとめることができている。  Ｃ：教材から読み取った内容を参考に、形式に沿ってまとめることができている。 |
| 近代の俳句　八句  （p.302 ～p.305） | ４ | ・俳句の基本的な読み方を習得する。  ・繰り返し音読して俳句に親しみ、リ  ズムや叙情を味わう。  ・短詩型文学固有の表現の特質を理解する。  ・作品に詠まれている自然や人生、生活を味わい、自然や人間を見る目を養い、感性や想像力を豊かにする。 | 知　(1)ア  Ａ：言葉の文化に関する働きとその価値を認識し、言葉の世界に対する関わりを実感している。  Ｂ：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  Ｃ：言葉に文化の発展と創造を支える働きがあることが理解できていない。  知　(1)オ  Ａ：本歌取りや見立てなどの表現の技法が詩歌等にとどまらず今日の評論や物語にも通じる技法としても効果を発揮すると理解し、文章を書く時などに使用している。  Ｂ：本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。  Ｃ：本歌取りや見立ての技法について理解が十分でなく、その効果を味わうことができていない。 | 書　(1)ア  Ａ：「近代の俳句　八句」について、自分の知識や体験の中から我が国の言語文化に関わりの深い題材を決め、題材の価値を評価・検討して表現している。  Ｂ：「近代の俳句　八句」について、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。  Ｃ：「近代の俳句　八句」について、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、表現することができていない。  書　(1)イ  Ａ：「近代の俳句　八句」について、自分の体験や思いが効果的に伝わる適切な表現技法を選択し、五感に訴えるような言葉の選択や組み立て方などを工夫している。  Ｂ：「近代の俳句　八句」について、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。  Ｃ：「近代の俳句　八句」について、自分の体験や思いをまとめることが十分でないため、効果的に伝えることができていない。 | 主  Ａ：教材から読み取った内容を参考に、適切な題材を選び、表現に工夫してまとめることができている。  Ｂ：教材から読み取った内容を参考に、適切な題材を選んでまとめることができている。  Ｃ：教材から読み取った内容を参考に、形式に沿ってまとめることができている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 現代の  小説 | ひよこトラック　小川洋子  （p.306～p.319） | ３ | ・小説の読み方を習得する。  ・物語の展開に即して登場人物の心理や行動を的確に読み取る。  ・作品の結末が示している意味について考えを深める。 | 知　(1)イ  Ａ：常用漢字の表記を文脈に応じて使い分けるだけでなく、仮名を用いて読みやすくすることにも配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)ウ  Ａ：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語を文章の中で使うことで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高めている。  Ｂ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：我が国の言語文化に特徴的な語句の意味や用法が理解できていない。  知　(1)エ  Ａ：文脈の中で意味が決まっていくという仕組みによって文章に奥行きや含蓄を持たせることができることを理解している。  Ｂ：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  Ｃ：文脈が文を超えて存在する意味的なつながりであることを理解できていない。  知　(2)カ  Ａ：我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用を理解し、読書に対する自分の興味や関心の幅を広げている。  Ｂ：我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。  Ｃ：我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用が十分にできていない。 | 読　(1)イ  Ａ：「ひよこトラック」について、作品や文章に表現されている書き手の人生観や価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることにつなげられている。  Ｂ：「ひよこトラック」について、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  Ｃ：「ひよこトラック」について、作品や文章に表されているものの見方や考え方を十分に解釈することができていない。  読　(1)エ  Ａ：「ひよこトラック」について、作品や文章の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深めている。  Ｂ：「ひよこトラック」について、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  Ｃ：「ひよこトラック」について、作品や文章について成立した他の作品などとの関係が把握できていない。 | 主  Ａ：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めることができている。  Ｂ：教材について文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を的確に解釈できている。  Ｃ：教材について文章に表されている感じ方、考え方を把握できている。 |